

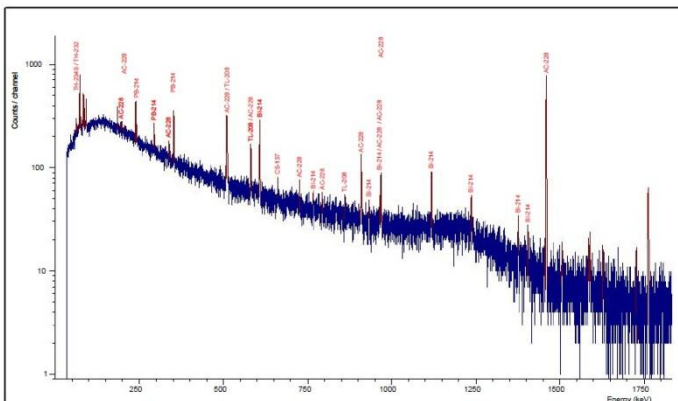
内部被ばくを避けるために、東京・関東の子どもたちに 保養を！

内部被ばくを考える市民研究会 代表 川根眞也

内部被ばくを考える市民研究会は、内部被ばくを調べ考え、内部被ばくについての知識を広めていくため、2011年10月に設立されました。

ちくりん舎に依頼し、ゲルマニウム半導体検出器による尿検査をこれまで24名分行いました。

下のグラフは、16歳の高校1年生の尿検査結果（スペクトル）ですが、セシウム134もセシウム137もNDでしたが、セシウム137のピークが見られました。これは、ゲルマニウム半導体検出器のCL（検出下限）とMDA（定量化できる最小限度）との間のセシウム137が尿中にあった可能性を示しています。彼の場合



埼玉県A市 16歳男性 セシウム134 ND セシウム137 ND 測定日 2013年10月26日

セシウム137が、0.13～0.27ベクレル/kgあった可能性があります。

彼は検査の2ヶ月前の運動部合宿で、きのこが嫌いと言うと、顧問にきのこを皿山盛り一杯食べさせられたとのことです。

尿検査24名の結果を見ると、全員がNDで

したが、年齢の低い子どもに何人か、このようなセシウム137のピークが見られました。私たちの会員の家族はほとんど、東北・関東の野菜、肉を食べず、産地に気をつけた食材を摂って生活しています。子どもたちからだけ、ピークが見られるということから、日頃活動している公園や校庭の砂ぼこりのついた放射性物質を摂取してしまっている可能性を考えています。

福島や宮城、千葉などのホット・スポットの子どもたちだけでなく、東京・関東地方の保養の受け入れ体制が早急に必要だと考えています。

会員を募集しています。ホームページは <http://www.radiationexposuresociety.com/> -

